



OKIグループの
CSRのかたち

特集

1

高機能消防指令センターシステム
(宇治市消防本部)

人々に安心して安全な 社会インフラを提供

消防の分野でも人々に 安心と安全を提供

OKIは創業以来、通信をはじめとするさまざまな社会インフラに貢献する技術開発や商品・サービスの提供に努めてきました。人々の命や財産を守る消防の分野でも、無線や交換機といった得意技術を活かした消防救急無線や消防指令センターシステムを提供し、人々の安心・安全に貢献しています。

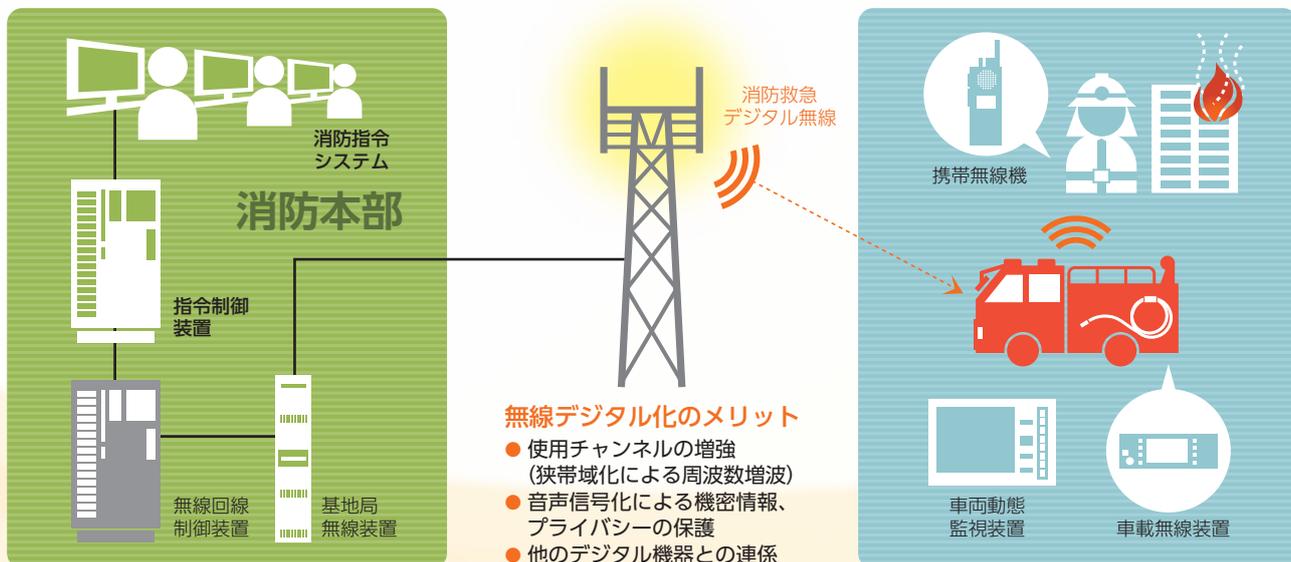
消防救急無線は、消防指令センターと災害活動車両や災害活動部隊との間で通信を行うシステムです。消防救急活動の高度化および電波の有効利用などの観点から、現在のアナログ方式からデジタル方式に2016年5月末までに移行するこ

とが決定しています。その実現に向け、2010年度に総務省消防庁が6消防本部を対象に実施した消防救急デジタル無線システム実証試験のうち、OKIは神戸市消防局と岐阜市消防本部の2つの実証試験に参加。デジタル化した製品で初めて電波特性を確認し、音声通信の必須機能に加え、ショートメッセージなどデータ通信のオプション機能の調査に協力しました。このうち岐阜市消防本部は、2011年6月、実証試験に参加した他の本部に先駆けて、システムの本格運用をスタートさせています。



消防救急デジタル無線システム
(岐阜市消防本部)

● 高機能消防指令センターと消防救急デジタル無線システム



東日本大震災を機に見直される 災害時の情報通信

東日本大震災を機に、広域災害時の消防に関する情報共有や情報収集の重要性が再認識されています。

OKIグループでも震災発生直後、電気や通信が不通になっている状況を受け、通信手段の提供、すなわち消防防災用無線の貸し出しによる被災地支援を想定し準備を始めました。実際に震災発生の翌日には各地から無線機貸与の依頼が入り始め、全国の営業担当や無線機を取り扱うディーラーの方々との連携に加え、工場の迅速な対応によって合計140式を超える携帯無線・車載無線を用意。被災現場での救援活動における連絡手段として活用していただくことができました。

また、東日本大震災の際には消防本部に加え、市町村の消防団や自主防災組織の献身的な支援活動が展開されましたが、現在のアナログ無線では回線に限界があることもあり、これらの組織では消防指令センターから発信される情報を受信するだけで、現場の状況を発信することができませんでした。デジタル無線化が進み、使用できるチャンネルが増えれば、消防団などとの双方向通信も可能となり、災害時の連携を強化できると期待されています。

2012年1月にまとめられた「東日本大震災を踏まえた今後の消防体制のあり方に関する答申」(消防審議会)においても、今後の大災害の発生に備え、全国の消防本部において消

防救急無線のデジタル化を早急に進める必要を訴えています。OKIでは、消防デジタル無線推進室を設置し、既存のお客様を中心に短期間での移行に努めています。

OKIの技術と経験が詰まった 「高機能消防指令センターシステム」

消防指令センターシステムは、119番の災害通報を受け付けてから災害地点を決定し、消防車や救急車の迅速な出動と災害現場での活動を支援するもので、OKIは1968年からサービスを提供しています。

近年では、社会環境や自然環境の変化により災害や事故が複雑・多様化、大規模化しているほか、都市構造の複雑化や住民ニーズの多様化など、消防を取り巻く環境は大きく変化し、より高度なシステムによる機敏な対応が求められるようになってきました。OKIは、40年以上におよぶ納入実績とそれとともに積み上げてきた消防業務そのものへの理解、OKIならではのICT*技術をもとにシステムを開発してきました。

現在は、IT統合化を進めた「高機能消防指令センターシステム」が全国の約150カ所の消防本部で稼働しています。たとえば2012年3月に運用を開始した宇治市の消防本部においては、119番通報を受信後ただちに位置情報通知システムによって事案の発生場所を特定し、自動出動指定装置や出動車両運用管理装置によって最適な出動隊の編成や出動指令を自動的に行うなど、災害時の初動体制の迅速化や確実性の強化に貢献しています。

* ICT : Information Communication Technology

大規模災害に備えた 消防広域化の実現を支援

首都圏直下、南海トラフなど、今後起こりうる巨大地震への備えとして、近隣の市町村と連携した災害対応が不可欠となるなか、消防の広域化とこれに対応した指令システムの開発も進められています。OKIは消防システムマーケティングチームを設置し、お客様のニーズに即した実践的でより信頼性の高い消防指令システムの開発と提供に挑戦しています。

消防救急無線デジタル化の推進とあわせ、地域の災害対応力の強化を支援し、今後もより安心で安全な社会インフラの整備に貢献していきます。

Stakeholder's VOICE



より広範囲での 消防活動の連携が 可能になりました

岐阜市消防長
足立 尚司 様

消防救急無線システムのデジタル化に伴い、出動時に離れた場所にいる車両同士が基地局を經由して連絡をとりあうなど、従来よりも広い範囲で消防活動の連携がとれるようになりました。また非常にクリアな音声で通話ができること、ショートメッセージの利用により秘匿性の向上が図れることもメリットと感じており、こうした現場の運用に配慮した使い勝手の向上にも尽力をいただいています。今後に向けては、隊員が携帯する機器の小型・軽量化とともに、市街地・山間部といった地域特性にあわせた柔軟な対応など、住民のさらなる安心・安全につながる消防活動の支援を期待しています。